



楽器リペアマン

ミュージックサポート三日月
ひがしもと **東本** 美咲さん
下関市出身

Q この職業を選んだの？

中学校で吹奏楽部に入って、その時に楽器が上手く吹けないからと部活をやめてしまった子がいました。後で分かったことですが、上手く吹けなかったのは楽器が壊れて調子が悪かったからだだったようです。きちんと修理されたその楽器は、とてもきれいな音が出るようになりました。「せっかく楽器を手にして音楽を楽しもうとしている人たちには、きちんとメンテナンスされた楽器で楽しく練習して、早く上達してほしい」とそう思って、中学1年生の時に、地元で音楽器修理の仕事をするようになりました。

Q 仕事をしているの？

どんなに大切に使用していても、たくさん練習をしたり、温度や湿度の変化、経年劣化が原因で、楽器の調子が悪くなる場合があります。持ち主一人一人が「吹きやすい」と感じられるように楽器をメンテナンスしたり、悪いところがないか点検したりすることが主な仕事です。消耗パーツの交換をしたり、思わぬ事故で変形した部分を正常な状態に戻したりと、いろいろなことをしています。私の場合は楽器修理の専門学校ではなく、楽器の修理屋さんで弟子入りして、修理技術を学びました。

仕事図鑑

このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。



①息漏れがないかを調べます。②使う道具も自分流にアレンジ。③まずはお話を聞くところから。持ち主の想いに寄り添います。

Q どんなときにやりがいを感じるの？

同じ状態の楽器は一本もありません。持ち主のお話を聞いて、一本一本状態を観察し、探りながらメンテナンスをします。依頼してくださったお客さまから頂く喜びの言葉は何よりもモチベーションアップになります。何年もケースの中で眠っていた楽器が、再び楽器として音を鳴らしてもらえるようになるとき、とてもうれしくやりがいを感じます。

★ **楽器リペアマンを目指す君へメッセージ**

楽器修理の道には、決まりもなく、年齢制限もないので、自分に合った方法とタイミングで頑張ることが一番だと思います。家族や友人、学校の先生など、身近な人たちのサポートも欠かせません。いろいろなことに感謝し、日々、成長を忘れずにいることが大切です。**【取材協力】** ミュージックサポート三日月 (☎ 774-0074)